



技術と人材

中部電力株式会社 取締役副社長 太田宏次

今年、創業50周年に当たられる年とのこと、心からお慶び申し上げます。

貴社が創立された1942年は、真珠湾攻撃に端を発した太平洋戦争突入の翌年であり、外にあってはミッドウェイ海戦の敗北、内にあっては食塩や衣料の配給制発足等戦時体制の泥沼に深くのめり込んでいった年でありました。貴社製品に関係の深い、「電磁誘導に関するファラデーの法則」が発見されてから111年目でもありました。以来50年、柱上変圧器の修理会社として発足した貴社は、幾多の苦難を乗り越え、特別高圧用変圧器を主力製品として全国に販売網を拡大し、今日の地位を築かれました。この間、電力業界はもとより日本経済の発展に多大の業績を挙げられました。

さて、近年の日本経済は一時ほどの大幅な成長は期待できないものの、電力需要は電力化率の増大とともに、民生用を中心として着実な伸びを示すものと予想されます。また、高度情報化社会の進展や産業界におけるコンピューター制御設備の普及に伴い、電力の質に対する社会の要請も日増しに高まりつつあります。このような状況から、電気事業および電機産業は電力供給の質・量両面に亘る課題を解決し、社会の付託に応えていかなければなりません。このためには多面的な取り組みが必要となりますが、中でも技術の占める役割はますます重要になって来るものと思われま

す。電力設備は一度設置されれば、何十年にも亘って自然の風雪に耐え、綿々と電力供給の用に供されなければなりません。その設備を支える技術も多岐に亘り、変圧器に見られるように、百年以上前に開発された基本技術に改良・改善を加え、今日まで発達し続けているものもあれば、ガス絶縁機器や各種制御機器のように新素材やコンピューター技術を駆使した最先端技術等、多種多様な技術が協調を取りつつ機能しております。

この傾向は今後も変わることなく続くことでしょう。諸先輩が築きあげた基本技術を基礎とし、徹底した現象解析や新素材の採用、ならびに最新の設計・製作技術により日々改善を加えて、新しい技術・製品に育て上げ、これを次世代に確実に伝承して行かなければなりません。また、各分野に亘る技術革新のテンポには目を見張るものがあり、それらの動向に対してアンテナを高く張り巡らし、時代を先取りした新製品開発にチャレンジする活力がなければ、世界的規模での企業競争には勝ち抜くことができません。

さらに技術上の問題とともに、今後ますます重要になって来るのは人材の問題でありましょう。価値観の多様化に伴う若者の技術系離れや出生率の低下等を考えますと、今日の技術大国日本を21世紀に向けて維持し、向上するためには、「人材こそ人財」という言葉が一層の重みを持つてくるのを感じます。企業に働く者がそこでの自己実現に誇りと生き甲斐を感じ、かつ企業がそれをキッチリと支え応え得る風土の醸成に、弛まぬ努力を惜しむならば、有能な人材の確保はもとより企業の存続も危うくなるものと思われま

す。貴社のこれからの新しい50年が輝かしいものになる事を念じつつ、自戒も含め、技術の向上および人材確保の将来に思いを馳せる今日この頃であります。